



平成 20 年 10 月 21 日

各 位

グラウンド・ファイナンシャル・アドバザリー株式会社
代表取締役 佐藤 明彦
(JASDAQ・コード番号：8783)
問い合わせ先 取締役 平野 公久
電話 03-5532-1031

**特別損失の発生及び
平成 21 年 3 月期 第 2 四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ**

平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の第 2 四半期において、下記のとおり特別損失が発生しましたので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績動向などを踏まえ、平成 20 年 5 月 15 日付「平成 20 年 3 月期 決算短信（非連結）」にて発表いたしました平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失（投資有価証券評価損）の発生及びその内容

当社が保有する「その他投資有価証券」に区分される保有投資有価証券のうち、福岡地区におけるオフィスビル開発案件に係る匿名組合出資金につき、その回収可能性を検討の上、減損処理を行う必要があるものと判断いたしました。これにより投資有価証券評価損約 32 百万円を第 2 四半期累計期間末に特別損失として計上することといたしました。

2. 平成 21 年 3 月期 業績予想の修正

(1) 第 2 四半期累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想 (A)	120	30	30	18
今回修正 (B)	76	▲19	▲18	▲50
増減額 (B - A)	▲44	▲49	▲48	▲68
増減率	▲36.7%	－%	－%	－%

(2) 通期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	320	100	100	60
今回修正 (B)	190	0	2	▲32
増減額 (B - A)	▲130	▲100	▲98	▲92
増減率	▲40.6%	▲100.0%	▲98.0%	－%

(3) 修正理由

不動産業界におきましては、サブプライム・ローン問題に端を発する世界的な金融市場の混乱及び信用収縮により国内の不動産投資市場は収縮し、国内不動産関連企業の経営破綻も相次ぎ、また、それに伴い、不動産売買件数が著しく低下するなど、証券化手法によるファイナンス案件の需要は停滞しました。

このような状況下、当上半期につきましては、当社の取引先である株式会社アーバンコーポレイションの経営破綻が生じたことを一因として当社の主業務であるストラクチャリング業務収益が大幅に落ち込み、その減少分を新規クライアントの獲得等で補完するに至らず、営業収益、営業利益及び経常利益については、当初の業績予想を下回る見込みです。また、当期純利益につきましては上記理由に加え、投資有価証券評価損に伴う特別損失の発生により損失が増加する見込みです。

下半期につきましても、当社の業務領域である不動産市場・金融市場の混乱が急速に回復するとは見込み難しく、当社の業務環境については、上半期と同様に厳しい受注環境が継続すると予想されます。また、安定的なアドバイザー業務収益の積み上げや経営効率向上によるコスト削減効果のみでは、主となるストラクチャリング業務の落ち込みを支えるに至らない見込みであること等を総合的に勘案し、通期業績予想を修正いたします。

今後の取り組みにつきましては、新規クライアント獲得の取組みを継続するとともに、他社との協業も積極的に検討し、業績の向上を図る所存です。

(4) ご参考：前期の実績（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	純利益
中間期	192	96	97	57
通期	270	80	82	48

3. その他（配当金について）

配当金につきましては、従来予想を修正せず、期末配当金1株当たり1,000円を予定しております。

（注）上記の業績予想は、現時点での入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上